

衣類の収納に関する研究

中 島 喜代子・草 薙 亜 紀

Studies on the Strage Space of Clothing

Kiyoko NAKAJIMA and Aki KUSANAGI

The purpose of this paper is that the basic data for thinking about the storage space of clothing in future have been obtained. Then it has been made clear that the way to use walk-in closet and closet, and valuation of it by dwellers. And it has been investigated that how to change volume of the storage space for clothes, according to difference of the type of the space which is exclude use for the storage in the house. Therefor, we have reserched 227 dwellers in Mie prefecture.

The following results have been obtained.

- 1) It has been found that, at the type of walk-in Closet, some clothes of owner of this space have not been puted into this space and have been overflowed into another space, in the other hand the clothes of another family have been puted into this space. And many articles besides the clothes have been puted into this space.
- 2) The dwellers of the type of walk-in Closet have placed a high value on the characteristic of this space, and have been in need of this space intensely.
- 3) It has been found that volume of the storage space for clothes have been different from one type of storage space to another.

1. はじめに

近年、わが国においても衣類をはじめとする生活用品の収納スペースについて、関心が高まってきている。それは、わが国独特の生活様式である四季の衣類を所有することによって衣類の所有量が非常に多いこと、さらに生活様式の多様化等によってその保有量が飛躍的に増加していることと同時に、住宅面積の狭さが原因となって衣類についても居住者がその収納に困っている状況があるからである。また、実際に住宅の収納スペース全体の中で衣類が占める割合は最も多くなっている¹⁾。その中で、「ウォークインクローゼット」、「クローゼット」と呼ばれるような新しい衣類の収納専

用スペースがハウスメーカーによって出されてきている。しかし、このような衣類の収納スペースに関する研究はほとんど行われていない²⁾。

そこで、本論文では、納戸やウォークインクローゼットなどの収納専用スペースをもつ住宅において、居住者が収納専用スペースを実際にどのようなに使っているか、衣類の収納がどのように行われているか、また居住者がそれをどう評価しているかについて、収納専用スペースの設置状況別にとらえることを目的としている。本論文で取り組むべき課題と方法を、以下に述べる。

- 1) 収納専用スペースの設置状況別に住宅タイプを設定し、住宅や家族についての特徴をとらえる。
- 2) 収納専用スペースの実態と、その使い方およ

びその評価について分析し、ウォークインクロゼットのあり方と今後の動向について検討する。

3) 衣類に関する収納スペース量について、実態を分析することにより収納専用スペースの設置状況による違いをとらえる。

4) 衣類の収納の仕方について、実態を分析することにより収納専用スペースの設置状況の違いによる差異を検討する。

5) 収納スペース全般と、衣類に関する収納スペースについての居住者の評価と要求についてとらえ、今後の収納専用スペースの動向とそれに対する方針について検討する。

まず、本報では、上記 1) と 2) 3) についてとらえることを目的とする。

2. 調査方法

調査対象として、三重県の3団地の建て売り住宅と、ハウスメーカーの注文住宅（三重県の北勢および中勢に建設されたもの）のうち納戸あるいはウォークインクロゼット等の収納専用スペースをもつ住宅を選定した。また、比較サンプルとして収納専用スペースをもたない住宅についても上記3団地の中から選定して、同様に調査を行った。

調査時期は昭和63年8月～11月であり、調査方法は各住宅に直接配布し2～3日後に回収する留置式のアンケート調査である。その結果、227件の有効サンプルを得た。

3. 調査結果と考察

1) 住宅のタイプ分類と調査対象の特徴

1. 住宅のタイプ分類

平面プランに記述されている収納専用スペースの名称は、その実態の如何に関わらず必ずしも統一して用いられていない³⁾。そこで、本研究をすすめるにあたって、まず「ウォークインクロゼット」の概念を検討し⁴⁾、住宅のタイプ分類を行なう。

「ウォークインクロゼット」とは、主に衣類など身のまわり品のための収納専用スペースをさす。ハンガーパイプなどの設備があり、衣類をオープンな状態で吊るして収納するなど部屋そのものが収納家具の役割を果たしている。部屋の中に入ってももの出し入れをするが、場合によってはその中で着替えや化粧が行なわれる。原則的には、個

人専用にするため、使用者の居室に接続している。一方、「納戸」とは、衣類以外にもさまざまな生活用品を収納するための収納専用スペースであり、主に使用頻度の低いものの収納にあてられる。納めるものは納戸の中に持ち込まれた家具や箱の中に収納されることが多い。また、家族全員のものが収納されるなど使用者が限定されないことが多い。

以上の概念をベースにして、回収した調査票をもとに、収納専用スペースが接続する空間やハンガーパイプ設備の設置状況など収納専用スペースの実態を検討し、調査対象世帯を分類する。

まず、平面プランに記入されている収納専用スペースの名称別に、各収納専用スペースの面積と接続の仕方について検討する。

クロゼット類（注3に示す納戸以外の全ての収納専用スペースを含む。以後も同様。）の面積は2.5㎡～10㎡の間にあり、平均面積は4.7㎡である。同様に、納戸の面積は2.5㎡～12㎡にわたっており、平均面積は5.5㎡でクロゼット類に比べてやや広がっている（表1）。

表1 収納専用スペースの面積

収納専用スペースの面積 (㎡)	納 戸		クロゼット	
	件数	%	件数	%
2.0 ～ 2.9	2	1.9	2	3.1
3.0 ～ 3.9	5	4.8	11	17.2
4.0 ～ 4.9	35	33.7	25	39.1
5.0 ～ 5.9	11	10.6	7	10.9
6.0 ～ 6.9	33	31.7	14	21.9
7.0 ～ 7.9	6	5.8	0	0.0
8.0 ～ 8.9	8	7.7	3	4.7
9.0 ～	4	3.8	2	3.1
合 計	104	100.0	64	100.0
平均面積 (㎡)	5.5		4.7	

収納専用スペースが接続している空間を、表2に示す。クロゼット類は個室・寝室に接続しているものが約8割に達しており、その中で主寝室に接続しているものが多く（69%）、廊下・ホールに接続しているものは1割程度である。一方、納戸の場合は廊下・ホールに接続しているものが多く（69%）、居室に接続しているもののほとんどは主寝室である（26%）。すなわち、クロゼット類は主寝室型、納戸は廊下・ホール型が一般的といえる。

衣類の収納に関する研究

収納専用スペースの面積と接続空間についてのこの傾向は、前に行った全国のハウスメーカーに対する調査でも裏付けられている⁵⁾。しかし、クロゼット類と納戸の一部には区別が不明確なものがあり、メーカーの側においても混同されている側面があるといえる。

次に、平面プランに記入された収納専用スペースの名称別に、住宅購入時に各収納専用スペースに設けられていた設備の実態と、その後の改造の実態について示す。

クロゼット類の場合、設備が何も設けられていないものはほとんどなく、ハンガーパイプが設置されているものが9割を越えており、棚の設置率もかなり高い。一方、納戸については、何も設備が設けられていないものが7割近くあり、棚・ハンガーパイプ・つくりつけ家具・戸棚の設置率は

いずれも一割台である(表3)。この設備の設置状況も前に示した全国のハウスメーカー調査の実態と同様である⁶⁾。

収納専用スペースの改造については、表4に示すように改造を行った住宅は、クロゼット類・納戸ともにあまり多くない。改造内容では、クロゼット類の場合ハンガーパイプ設置が目立っている。

以上のように、クロゼット類と納戸については、その接続空間や附属設備にそれぞれの特徴がみられたが、一部に混同もみられる。そこで、それらの実態を基にして下記の住宅タイプを設定した。
＜収納専用スペースの設置状況別にみた住宅タイプ＞

A. 「一般住宅」：収納専用スペースをもたない住宅(76件)。

B. 「納戸型住宅」：収納専用スペースが廊下・

表2 収納専用スペースが接続する空間

収納専用スペースの接続空間	納 戸		クロゼット	
	件数	%	件数	%
主 寝 室	27	26.0	44	68.8
子 寝 室	0	0.0	6	9.4
その他親族の寝室	1	1.0	0	0.0
個 室	2	1.9	1	1.6
家族共有室	1	1.0	2	3.1
客 間	0	0.0	1	1.6
予 備 室	1	1.0	2	3.1
廊下・ホール	72	69.2	8	12.5
合 計	104	100.0	64	100.0

表4 収納専用スペースの改造(入居後)の内容
(改造したもののみ) (複数回答)

収納専用スペース内の改造	納 戸		クロゼット	
	件数	%	件数	%
パイプをつけた	4	44.4	6	75.0
棚をつけた	4	44.4	1	12.5
戸棚をつけた	9	100.0	8	100.0
鏡をつけた	1	11.1	2	25.0
パイプをはずした	0	0.0	0	0.0
棚をはずした	0	0.0	0	0.0
戸棚をはずした	0	0.0	0	0.0
そ の 他	2	22.2	1	12.5
合 計	9	100.0	8	100.0

表3 収納専用スペースに付けられていた設備(入居時)

(複数回答)

収納専用スペース内の設備空間	設 備 有 り				設 備 無 し			
	納 戸		クロゼット		納 戸		クロゼット	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
棚	17	17.5	36	75.0	80	82.5	12	25.0
ハンガーパイプ	11	11.3	44	91.7	86	88.7	4	8.3
つくりつけ家具	12	12.4	9	18.8	85	87.6	39	81.3
戸棚(天袋・地袋)	13	13.4	14	29.2	84	86.6	34	70.8
そ の 他	3	3.1	3	6.3	94	96.6	45	93.8
な し	65	67.0	3	6.3	32	33.0	45	93.8
小 計	97	100.0	48	100.0	97	100.0	48	100.0
不 明	5		1		5		1	
合 計	102		49		102		49	

ホールに接続している住宅または居室に接続している場合でもそのスペースにハンガーパイプの設備がない住宅（102件）。

C. 「クロゼット型住宅」：収納専用スペースが居室に接続しており、そこにハンガーパイプの設備がある住宅（49件）。ただし、BとCの両方にあてはまる住宅については「クロゼット型住宅」としている⁷⁾。

II. 調査対象の概要

調査対象の住宅の概要を表5に示す。各住宅タイプにおける注文住宅と建売住宅の割合は、対象選択の違いもあり、「一般住宅」はほとんどが建売住宅であり、「クロゼット型住宅」では最も注文住宅の割合が多くなっている。調査対象全体の平均延床面積は123.6㎡であり、住宅タイプ別に

みると「クロゼット型住宅」の延床面積が最も大きく（141.6㎡）、「納戸型住宅」がそれに次いでいる（123.7㎡）。また、対象全体の平均部屋数は6.8室であり、住宅タイプ別にみると、「納戸型住宅」（7.0室）と「クロゼット型住宅」（7.3室）では、平均を上回っている。

夫と妻の職業の状況を表6に示す。調査対象の職業は、夫の場合全体的に管理職・専門技術職の割合が多く、社会的階層は高い傾向があるが、「クロゼット型住宅」では他の住宅タイプの家庭と比べて自由業や自営業が多くなっており、この型の特徴がみられる。また、妻の職業では、「クロゼット型住宅」において、無職の割合が他の住宅タイプに比べて少なく、なんらかの形で働いている妻の率が高くなっており、衣類管理の合理化という働く妻の志向が現われているといえよう。

表5 調査対象の住宅の概要

	一般住宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		合 計	
	件 数	%	件 数	%	件 数	%	件 数	%
注 文 住 宅	2	2.6	70	68.6	38	77.6	110	48.5
建 売 住 宅	74	97.4	32	31.4	11	22.4	117	51.5
合 計	76	100.0	102	100.0	49	100.0	227	100.0

延床面積床面積 (㎡)	一 般 住 宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		合 計	
	件 数	%	件 数	%	件 数	%	件 数	%
～ 100 未 満	5	6.6	5	4.9	2	4.1	15	5.3
100 ～ 110 未 満	39	51.3	28	27.5	4	8.2	83	36.6
110 ～ 120 未 満	14	18.4	19	18.6	9	18.4	30	13.2
120 ～ 130 未 満	12	15.8	17	16.7	6	12.2	35	15.4
130 ～ 140 未 満	4	5.3	11	10.8	10	20.4	25	11.0
140 ～ 150 未 満	1	1.3	11	10.8	5	10.2	17	7.5
150 ～ 以 上	1	1.3	11	10.8	13	26.5	25	11.0
合 計	76	100.0	102	100.0	49	100.0	227	100.0
平 均 (㎡)	112.0		123.7		141.6		123.6	

部 屋 数 (室)	一 般 住 宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		合 計	
	件 数	%	件 数	%	件 数	%	件 数	%
5 未 満	15	19.7	5	4.9	7	14.3	27	11.9
6	37	48.7	23	22.5	10	20.4	70	30.8
7	20	26.3	51	50.0	13	26.5	84	37.0
8	4	5.3	14	13.7	8	16.0	26	11.5
9 以 上	0	0.0	9	8.8	11	22.4	20	8.8
合 計	76	100.0	102	100.0	49	100.0	227	100.0
平 均 (室)	6.2		7.0		7.3		6.8	

衣類の収納に関する研究

表6 夫 と 妻 の 職 業

夫 の 職 業	一 般 住 宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		合 計	
	件 数	%	件 数	%	件 数	%	件 数	%
専 門 ・ 技 術 職	15	22.4	17	17.5	7	16.3	39	18.8
管 理 職	16	23.9	32	33.0	12	27.9	60	29.0
事 務 職	15	22.4	13	13.4	4	9.3	32	15.5
販売・サービス職	10	14.9	10	10.3	2	4.7	22	10.6
一 般 労 働 職	9	13.4	14	14.4	4	9.3	27	13.0
農 林 ・ 漁 業 従 事	0	0.0	0	0.0	1	2.3	1	0.5
自 営 業	1	1.5	5	5.2	7	16.3	13	6.3
自 由 業	0	0.0	0	0.0	3	7.0	3	1.4
無 職	1	1.5	4	4.1	1	2.3	6	2.9
そ の 他	0	0.0	2	2.1	2	4.7	4	1.9
小 計	67	100.0	97	100.0	43	100.0	207	100.0
不 明	9		5		6		20	
合 計	76		102		49		227	

妻 の 職 業	一 般 住 宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		合 計	
	件 数	%	件 数	%	件 数	%	件 数	%
専 門 ・ 技 術 職	4	6.0	8	8.6	6	13.6	18	8.8
管 理 職	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
事 務 職	5	7.5	7	7.5	5	11.4	17	8.3
販売・サービス職	4	6.0	1	1.1	0	0.0	5	2.5
一 般 労 働 職	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
農 林 ・ 漁 業 従 事	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自 営 業	0	0.0	1	1.1	4	9.1	5	2.5
自 由 業	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
パート・アルバイト	11	16.4	22	23.7	11	25.0	44	21.6
内 職	1	1.5	4	2.0	1	2.3	6	2.9
無 職	41	61.2	48	51.6	16	36.4	105	51.5
そ の 他	1	1.5	2	2.2	1	2.3	4	2.0
小 計	67	100.0	93	100.0	44	100.0	204	100.0
不 明	9		9		5		23	
合 計	76		102		49		227	

家族の状況を表7に示す。調査対象の夫婦の年齢については、夫の平均年齢は41.0才、妻の平均年齢は37.6才であり、住宅タイプによる大きな違いはない。家族人数は平均3.9人であり、核家族が85%を占めている。全体的に、家族の状況では、住宅タイプによる差異はほとんどない。

2) 収納専用スペースの実態と使われ方

I. 収納専用スペースの用途

実際に収納専用スペースを用いて行われる使用

内容の実態を、表8に示す。「クロゼット型住宅」、「納戸型住宅」とともにこのスペースが衣類の収納に用いられている割合が高く、特に「クロゼット型住宅」では1件を除いた全ての家庭においてこの用途に用いられている。しかし、「クロゼット型住宅」においても衣類の収納と関連が強い行為である着替えが行われる割合は3割程度であり、化粧が行われる割合はさらに低く、1割に満たない。

「納戸型住宅」では、収納専用スペースを勉強

表 7 調査対象の家族の状況

夫の年齢(歳)	一般住宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		合 計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
～ 30 未 満	5	6.6	12	11.8	2	4.1	19	8.8
30 ～ 39	30	39.5	38	37.3	27	55.1	95	0.0
40 ～ 49	28	36.8	25	24.5	15	30.6	68	8.3
50 ～ 59	6	7.9	14	13.7	3	6.1	23	2.5
60 ～ 以 上	7	9.2	13	12.7	2	4.1	22	0.0
合 計	76	100.0	102	100.0	49	100.0	227	100.0

妻の年齢(歳)	一般住宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		合 計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
～ 30 未 満	15	19.7	16	15.7	9	18.4	40	17.6
30 ～ 39	35	46.1	43	42.2	24	49.0	102	44.9
40 ～ 49	18	23.7	22	21.6	15	30.6	55	24.2
50 ～ 59	5	6.6	13	12.7	1	2.0	19	8.4
60 ～ 以 上	3	3.9	8	7.8	0	0.0	11	4.8
合 計	76	100.0	102	100.0	49	100.0	227	100.0

家族の人数(人)	一般住宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		合 計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
2	8	10.5	13	12.7	7	14.3	28	12.3
3	13	17.1	17	16.7	5	10.2	35	15.4
4	41	53.9	47	46.1	25	51.0	113	49.8
5	9	11.8	17	16.7	8	16.3	34	15.0
6	3	3.9	4	3.9	3	6.1	10	4.4
7 以 上	2	2.6	4	3.9	1	2.0	7	3.1
合 計	76	100.0	102	100.0	49	100.0	227	100.0

家 族 型	一般住宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		合 計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
拡 大 家 族	8	10.5	16	15.7	9	18.8	33	14.6
核 家 族	68	89.5	86	84.3	39	81.3	193	85.4
合 計	76	100.0	102	100.0	48	100.0	226	100.0

部屋や書斎に利用している家庭が1割程度ある。これは、納戸が廊下・ホールに接続している場合が多く、面積もクロゼットよりもやや広いことから収納以外の用途に利用されやすいためと考えられる。

Ⅱ. 収納専用スペースにおける衣類収納の実態
収納専用スペースを衣類の収納に利用している家庭について、そのスペースの使用者および収納

されている衣類の種類を検討する(表9、図1)。

まず、収納専用スペースを衣類の収納に使用している家族についてとらえる。「クロゼット型住宅」・「納戸型住宅」とともに夫と妻のほとんどが収納専用スペースを使用している。しかし、両住宅タイプともに子どもも5割程度以上が使用しており、「クロゼット型住宅」の収納専用スペースは個室(主に主寝室)に接続しているにもかかわらず、家族共用で用いられることが多く、その個室

衣類の収納に関する研究

表 8 収納専用スペースの用途

(複数回答)

	納戸型住宅		クロゼット型住宅		全 体	
	件 数	%	件 数	%	件 数	%
衣類の収納	79	81.4	46	97.9	125	86.8
衣類以外の収納	58	59.8	29	61.7	87	60.4
着替え・更衣	22	22.7	15	31.9	37	25.7
化粧室	5	5.2	2	4.3	7	4.9
家事室	6	6.2	1	2.1	7	4.9
勉強部屋・書斎・アトリエ	11	11.3	1	2.1	12	8.3
その他	1	1.0	2	4.3	3	2.1
全 体	97	100.0	47	100.0	144	100.0

表 9 収納専用スペースの使用者

(家族員別にみた収納専用スペース使用割合)

	納戸型住宅		クロゼット型住宅		全 体	
	件数	%	件数	%	件数	%
夫	73	94.8	42	95.5	115	95.0
妻	75	97.4	45	97.8	120	97.6
子	34	53.1	23	59.0	57	55.3
子	29	51.8	20	60.6	49	55.1
子	5	50.0	4	80.0	9	60.0
祖 父	4	66.7	0	0.0	4	40.0
祖 母	5	83.3	1	11.1	6	40.0
全 体	97	100.0	47	100.0	144	100.0

の使用者以外の家族も衣類の収納に使用している。

次に、収納専用スペースに収納される衣類の種類についてとらえる。「クロゼット型住宅」・「納戸型住宅」とともに、収納専用スペースに収納される割合が高い衣類は、洋服類、和服、下着、古着と続いており、主に洋服類の収納に用いられている。しかし、洋服類もその「すべてが収納」されている割合は高くなく、他の収納スペースにも分散して収納されている傾向がとらえられる。

以上のように、「クロゼット型住宅」において、クロゼットに個人の衣類をすべて収納するような使い方がされておらず、多くの家族の衣類が収納されているのは、やはりクロゼットの面積の狭さとともに、住宅全体における衣類の収納スペースが不足していることも原因として考えられる。

住宅タイプ別に収納専用スペースに収納される衣類の違いをみると、「納戸型住宅」よりも「ク

ロゼット型住宅」の方が使用季節・季節外ともに洋服類の収納率が高い。一方、古着の収納率は「納戸型住宅」の方が高い傾向がみられる。

また、履物は使用季節、季節外ともに収納専用スペースへの収納率は低く、特に「納戸型住宅」では使用季節の履物の収納率は極めて低い。

Ⅲ. 収納専用スペースにおける衣類以外の収納の実態

衣類以外の生活用品が収納専用スペースにどの程度収納されているのかについて検討する(図2)。

「クロゼット型住宅」では、スーツケース・旅行かばんの収納率ももっとも高く、「納戸型住宅」と比べてもかなり多く収納されている。次いで、冷暖房器具、ふとん・ざぶとん、予備のシーツ・タオル、儀式用品、本・雑誌の順となっており、これらの生活用品の収納率は、いずれも30%を越えている。

全体的に、「クロゼット型住宅」は「納戸型住宅」とほぼ似た収納のされ方をしており、中には「クロゼット型住宅」の方が収納率の高い生活用品もみられるなど、クロゼットが衣類専用の収納専用スペースとして用いられておらず、納戸的な使われ方をしている状況が認められる。

Ⅳ. 収納専用スペースに対する居住者の評価

寝室に接続する収納専用スペースをもつ世帯に限定し、収納専用スペースに対して衣生活に関連する9つの点についての評価を調査した。その結果を図3に示し、これについて、検討を加える。

上記の9つの点すべてについて、「納戸型住宅」よりも「クロゼット型住宅」の評価の方が高くなっており、衣生活に関する限りウォークインクロゼッ

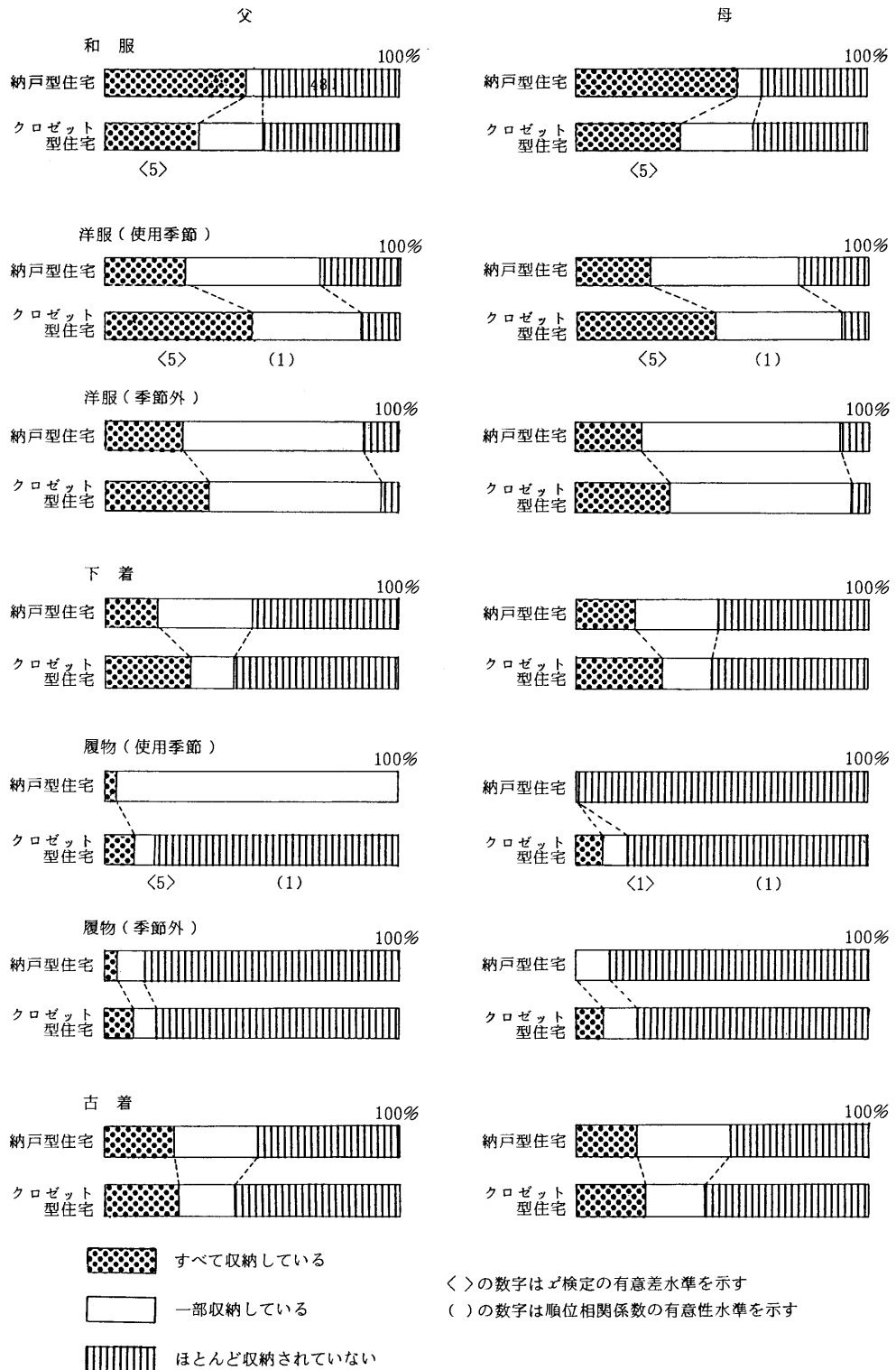


図1 使用者別収納専用スペースにおける衣類の収納割合

衣類の収納に関する研究

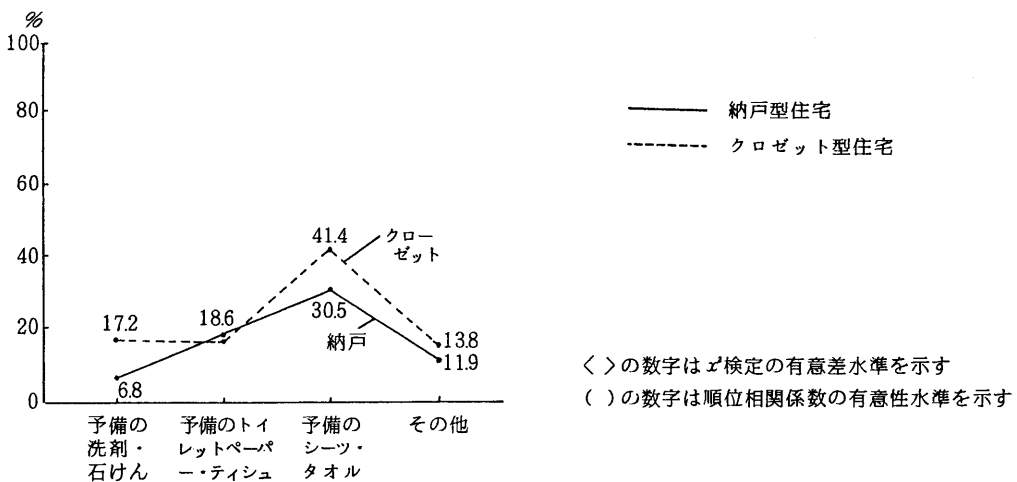
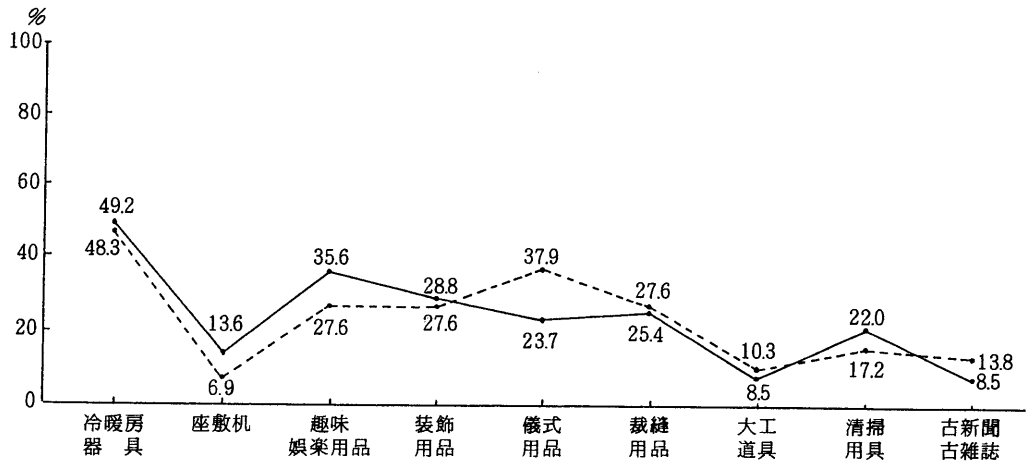
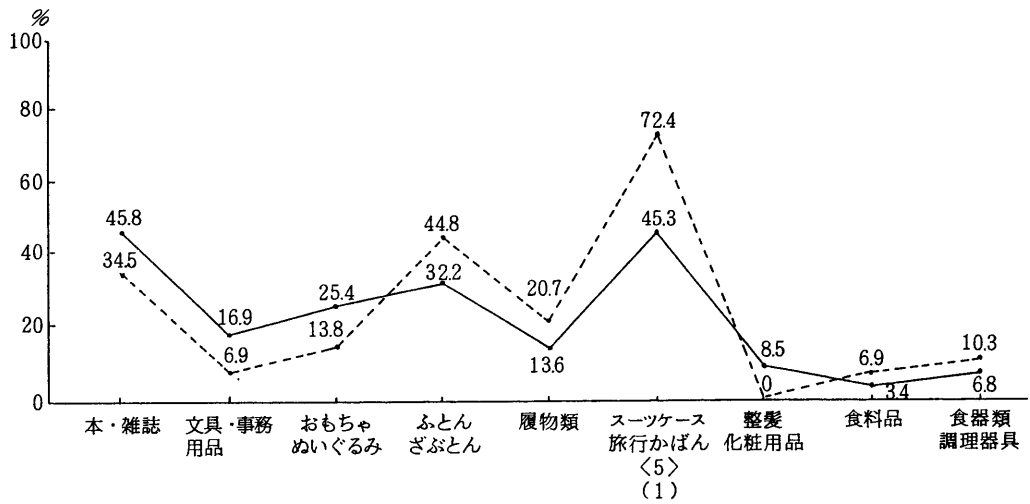


図2 収納専用スペースにおける衣類を除いた生活用品の収納割合

寝室に接続しているスペースについて

- ① 更衣の際の衣服選択の点

納戸型住宅

クロゼット型住宅

100%

② 衣類の整理の点

納戸型住宅

クロゼット型住宅

100%

③ 衣類の入れ替えの点

納戸型住宅

クロゼット型住宅

100%

④ スペース内の湿気の点

納戸型住宅

クロゼット型住宅

100%

⑤ スペース内のはこりの点

納戸型住宅

クロゼット型住宅

100%

⑥ 衣類の防虫の点

納戸型住宅

クロゼット型住宅

100%

⑦ 衣類の型くずれ・しわの点

納戸型住宅

クロゼット型住宅

100%

⑧ スペースが接続している寝室の清掃の点

納戸型住宅

クロゼット型住宅

<1> (1)

⑨ スペースが接続している寝室の景観の点

納戸型住宅

クロゼット型住宅

<5> (1)

良い
何ともいえない
悪い

<>の数字はZ検定の有意差水準を示す
()の数字は順位相関係数の有意性水準を示す

Category	Housing Type	Good (%)	Indifferent (%)	Bad (%)
① 更衣の際の衣服選択の点	納戸型住宅	~85	~10	~5
	クロゼット型住宅	~85	~10	~5
② 衣類の整理の点	納戸型住宅	~85	~10	~5
	クロゼット型住宅	~85	~10	~5
③ 衣類の入れ替えの点	納戸型住宅	~15	~80	~5
	クロゼット型住宅	~85	~10	~5
④ スペース内の湿気の点	納戸型住宅	~35	~55	~10
	クロゼット型住宅	~35	~55	~10
⑤ スペース内のはこりの点	納戸型住宅	~35	~45	~20
	クロゼット型住宅	~35	~55	~10
⑥ 衣類の防虫の点	納戸型住宅	~35	~55	~10
	クロゼット型住宅	~35	~55	~10
⑦ 衣類の型くずれ・しわの点	納戸型住宅	~35	~55	~10
	クロゼット型住宅	~35	~55	~10
⑧ スペースが接続している寝室の清掃の点	納戸型住宅	~35	~55	~10
	クロゼット型住宅	~65	~25	~10
⑨ スペースが接続している寝室の景観の点	納戸型住宅	~35	~55	~10
	クロゼット型住宅	~65	~25	~10

図3 収納専用スペースに対する居住者の評価

衣類の収納に関する研究

トの優位性がうかがえる。両者共に評価が高いのは、衣服の選択・整理の点である。逆に、両者共に評価があまり良くないのはスペース内の湿気・ほこり・防虫の点である。また、「納戸型住宅」に対して「クロゼット型住宅」の評価が高いのは、衣類の入れ替えと型くずれ・しわの点であり、衣類をハンガーパイプに吊るした形で収納するウォークインクロゼットの利点が正当に評価されているといえる。また、寝室に接続してウォークインクロゼットを設けることによって、寝室に衣類収納家具を置くことが減少し、その結果、スペースが接続する寝室の清掃やその寝室の景観の点についても、ウォークインクロゼットの優位性が示されている。

次に、収納専用スペースのもつ全世帯に対して、収納専用スペースの必要性についての考えを調査した。その結果を図4に示す。

収納専用スペースの必要性については、「納戸型住宅」・「クロゼット型住宅」ともに認めており、特に「クロゼット型住宅」では1件を除いた

すべての世帯で必要と感じている。

以上のように、居住者はウォークインクロゼットの利点を全体的に正当に高く評価しており、その必要性についても認めているといえる。

3) 衣類に用いられる収納容量

I. 衣類用収納家具（置き家具）の本数

衣類用の収納家具（置き家具）の本数を、表10に示す。調査対象全体でみると、整理ダンスの本数が最も多く1.71本、次いで洋服ダンスの1.66本、和ダンスの1.03本となっている。また、ベビーダンス・ミニダンス、ハンガーパイプ等の補助的家具はいずれも約0.8本所有されているが、ファンシーケース、籐の段かごは、0.5本以下で、所有していない家庭の方が多い。

住宅タイプ別にみると、「納戸型住宅」では、洋服ダンスや和ダンス、整理ダンス等の大型家具の所有本数が多い傾向があるが、「クロゼット型住宅」では少なくなっており、これはウォークインクロゼットがこれらの衣類収納家具の役割をしているためと考えられる。

II. 衣類用収納家具（置き家具）の容積と面積

衣類用収納家具（置き家具）の容積と面積を表11に示す。対象全体における全家具の平均容積は4.66㎡となっており、これは天井高240cmとすると床面から天井までの空間の約2㎡分を占めていることになる（ただし、この中には移動式のハンガーパイプを含めておらず、これを加えると実際はもっと高い値になる）。同様に、全家具の面積は約3.01㎡となっている。住宅タイプ別にみると、

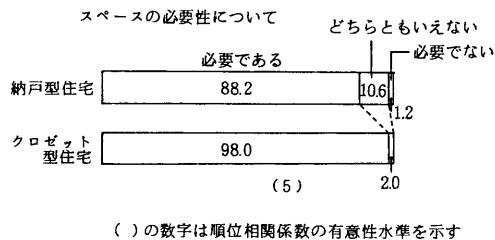


図4 収納専用スペースの必要性に対する考え

表10 住宅タイプ別平均家具所有本数

(本)	一般住宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		全 体	
	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数
洋服ダンス	1.71	75	1.73	102	1.47	49	1.66	226
和ダンス	0.97	75	1.10	102	0.96	49	1.03	226
整理ダンス	1.61	75	1.83	102	1.59	49	1.71	226
ベビーダンス・ミニダンス	0.63	75	0.71	102	0.92	49	0.72	226
押入ダンス	0.71	75	0.84	102	0.80	49	0.79	226
ファンシーケース	0.41	75	0.29	102	0.51	49	0.38	226
籐の段かご	0.31	75	0.39	102	0.59	49	0.41	226
ハンガーパイプ	0.89	75	0.73	102	0.73	49	0.78	226
鏡台・ドレッサー	0.95	76	1.15	102	1.16	49	1.08	227
衣類用収納家具全体(鏡台除く)	7.24	75	7.62	102	7.57	49	7.48	226

表11 住宅タイプ別平均家具容積・面積

平均家具容積 (m ³)	一般住宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		全 体	
	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数
洋服ダンス	1.92	63	1.94	88	1.78	42	1.90	193
和ダンス	0.86	62	1.04	87	0.96	43	0.96	192
整理ダンス	1.12	62	1.16	84	1.11	42	1.14	188
ベビーダンス・ミニダンス	0.24	63	0.28	85	0.33	43	0.28	191
押入ダンス	0.19	59	0.33	83	0.35	42	0.29	184
ファンシーケース	0.13	61	0.13	86	0.09	42	0.12	189
籐の段カゴ	0.07	60	0.08	79	0.14	41	0.09	180
衣類用収納家具全体	4.39	57	4.83	72	4.75	37	4.66	166

平均家具面積 (m ²)	一般住宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		全 体	
	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数
洋服ダンス	1.03	63	1.06	88	0.96	42	1.03	193
和ダンス	0.49	62	0.59	88	0.55	43	0.55	194
整理ダンス	0.74	62	0.80	85	0.79	42	0.78	190
ベビーダンス・ミニダンス	0.18	63	0.21	87	0.26	43	0.21	193
押入ダンス	0.26	60	0.31	82	0.38	42	0.31	185
ファンシーケース	0.12	61	0.10	86	0.09	42	0.10	189
籐の段カゴ	0.09	60	0.08	79	0.15	41	0.19	180
衣類用収納家具全体	2.85	59	3.08	75	3.12	38	3.01	172

やや「一般住宅」の値が低く、家具容量は少ないといえる。これは、この住宅の延床面積が小さいことと関係していると考えられる。

各家具別にみると、洋服ダンス、和ダンス、整理ダンスの大型家具だけで容積4.00m³、面積2.36m²となっており、いずれも全家具容積・全家具面積の約80%を占めるものである。その中でも、洋服ダンスの占める値は大きく、大型家具中の約半数を占めている。住宅タイプ別にみると、家具の所有本数でもみられたように、「クロゼット型住宅」において、洋服ダンスの容量がやや少ない傾向が認められる。

次に、家族人数と家具の容積・面積の関係を図5～図7に示す。全家具の容積・面積と家族人数との関連をみると、「クロゼット型住宅」のみに関連があり、家族人数が増加すると家具の容積・面積ともに増加する傾向がみられるが、「一般住宅」と「納戸型住宅」ではこの関連は認められない。これを各家具別にみると、この関連が顕著にみられるのは「クロゼット型住宅」だけであり、洋服ダンス、和ダンス、整理ダンス、ベビーダン

ス・ミニダンス、押入ダンス等多くの家具について、家族人数の増加に伴う家具容積・面積の増加傾向が認められる。これは、「クロゼット型住宅」の場合、家具の個人専用使用が多く行われるためと考えられる。

住宅の延床面積と家具の容積・面積との関連を、図8～図10に示す。「一般住宅」と「納戸型住宅」では、全家具の容積・面積は住宅の延床面積の増加に伴って増加する傾向が認められる。しかし、「クロゼット型住宅」ではこの関連は認められない。また、家具の容積と住宅の延床面積との関連を各家具別にみても、「納戸型住宅」においては、押入ダンスの他に、洋服ダンス、和ダンス、整理ダンス等の大型家具についても認められる。しかし、「クロゼット型住宅」ではどの家具についてもこの関連は認められない。これは、前にみたように「クロゼット型住宅」では、家具の容量はむしろ家族人数に影響を受けていることと関連していると考えられる。

以上のように、家具の容積・面積は、家族人数や住宅の延床面積に影響を受けているが、この影

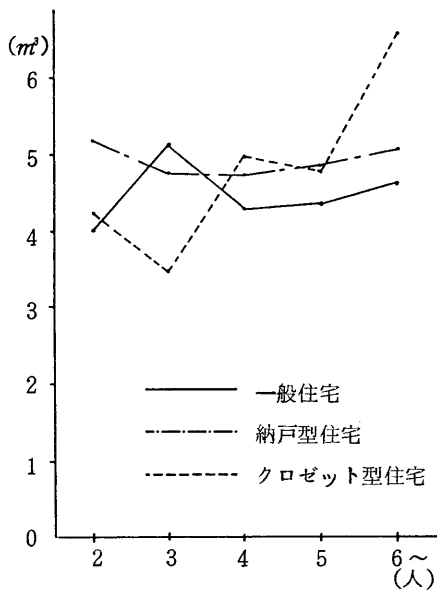


図5 家族人数・住宅のタイプ別全家具容積

響の現れ方は住宅タイプによって、全く異なっており、「納戸型住宅」では家具の容量は住宅の延床面積に左右され、「クロゼット型住宅」では家族人数によって左右されていることが認められた。

Ⅲ. 押入・物入・つくりつけ家具の間数と箇所数

住宅タイプ別に住宅全体の押入・物入・つくりつけ家具の間数と箇所数の実態を、表12に示す。

全調査対象の押入の平均間数は2.9間、平均箇所数は3.1箇所であるが、「納戸型住宅」は3.0間・3.4箇所とやや大きく、「クロゼット型住宅」は2.6間・3.1箇所とやや小さい。また、物入の全調査対象の平均間数は1.2間、平均箇所数は1.9箇所であるが「一般住宅」ではこれよりやや大きく、

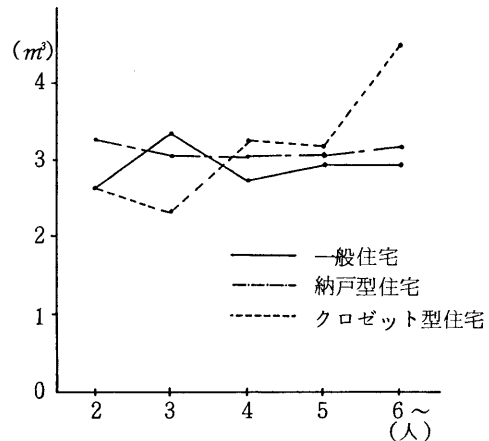


図6 家族人数・住宅のタイプ別全家具面積

逆に「納戸型住宅」では平均を下回っている。つくりつけ家具の全調査対象の平均間数は0.4間、平均箇所数は0.5箇所であるが、「一般住宅」ではこれより小さく、「クロゼット型住宅」では大きくなっている。

以上のように、「クロゼット型住宅」ではつくりつけ家具の容量が多く、押入の容量が少ない点に特徴があり、「納戸型住宅」では押入の容量が多く、物入の容量が少ない点に特徴がある。すなわち、収納空間の側面からみると「クロゼット型住宅」は家具重視の平面であり、「納戸型住宅」は押入重視の平面プランといえよう。

次に、住宅の延床面積と押入・物入・つくりつけ家具の間数と箇所数との関連を、図11～図16に示す。押入の間数・箇所数は、どのタイプの住宅も延床面積が大きい住宅ほど多くなる傾向がみられる。同一の住戸面積レベルでみると、間数は「一般住宅」で多く、箇所数では「納戸型住宅」

表12 押入・物入・つくりつけ家具の平均間数・平均箇所数

	一般住宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		全 体		平均値 の検定
	件 数	平 均	件 数	平 均	件 数	平 均	件 数	平 均	
押 入 の 間 数	76	2.91	102	2.97	49	2.61	227	2.87	
押 入 の 箇 所 数	76	2.67	102	3.38	49	3.08	227	3.08	(1)
物 入 の 間 数	76	1.40	102	0.92	49	1.24	227	1.15	(1)
物 入 の 箇 所 数	76	2.32	102	1.62	49	1.96	227	1.93	(1)
つくりつけ家具の間数	76	0.19	102	0.37	49	0.66	227	0.37	(1)
つくりつけ家具箇所数	76	0.25	102	0.49	49	0.92	227	0.50	(1)

() 内の数字は平均値の差の有意差水準を示す

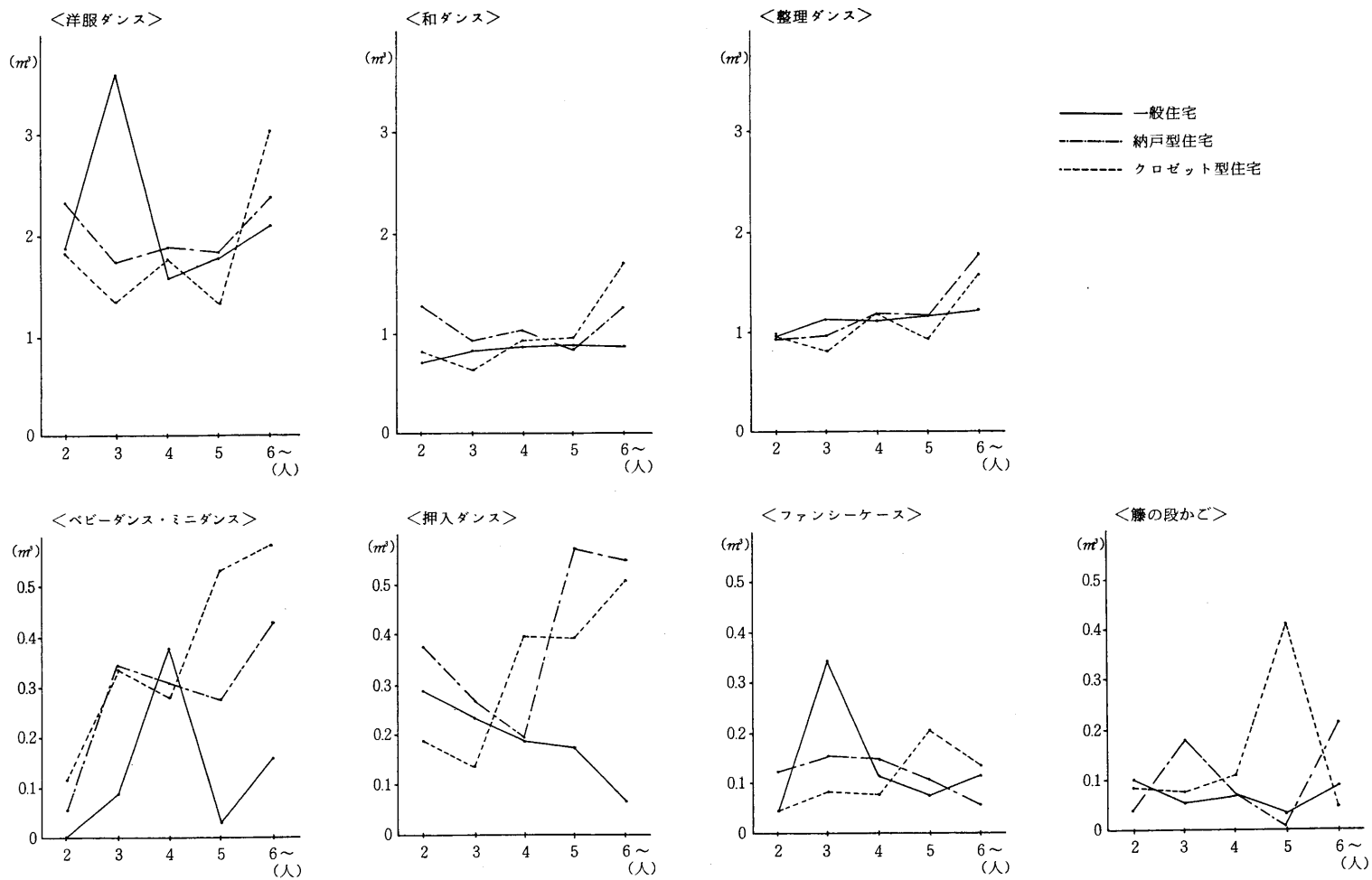


図7 家族人数・住宅のタイプ別家具容積

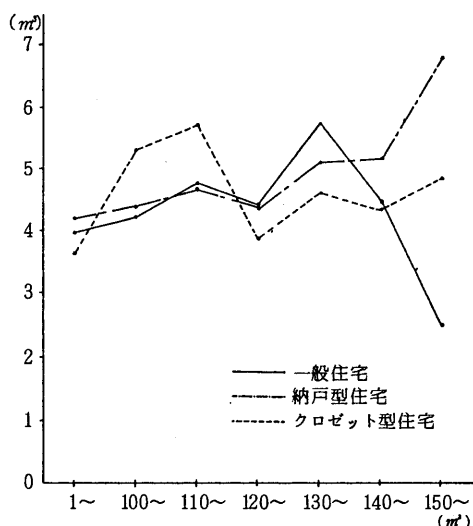


図8 床面積・住宅のタイプ別全家具容積

で多い傾向がみられる。これは、「一般住宅」では、収納専用スペースがないことから、押入の容量をより大きくする必要があることによっていると考えられる。また、物入れの間数、箇所数については延床面積との関連はみられない。つくりつけ家具については、「クロゼット型住宅」と「納戸型住宅」では延床面積が大きくなると、その間数・箇所数ともに多くなる傾向がみられる。

IV. 衣類が収納されている押入の容積

本節では、全押入のうち、衣類の収納に用いられている部分の容積について検討を加える。衣類の収納に用いられる押入の容積（以下、「衣類用押入容積」と略す）の住宅タイプ別の値を表13に示し、住宅の延床面積と家族人数との関連を図17と図18に示す。

対象全体の「衣類用押入容積」の平均は5.16㎡あり、全衣類用収納家具の平均4.66㎡よりも大きな値となっている。住宅タイプ別にみると、「一般住宅」の容積は他の住宅タイプより1㎡以上大きくなっており、他の型が衣類を収納専用スペースに収納する分だけ、この型では押入に収納する容量が大きくなっているといえよう。

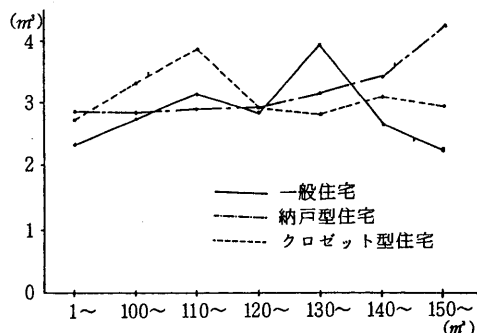


図9 床面積・住宅のタイプ別全家具面積

衣類用押入容積と住宅の延床面積との関連をみると、「一般住宅」では延床面積の増加に伴う「衣類用押入容積」の漸増がみられる。また、家族人数と衣類用押入容積との関連では、「一般住宅」と「クロゼット型住宅」においては家族人数の増加に伴う「衣類用押入容積」の増加が顕著に認められる。しかし、「納戸型住宅」ではこの関連が認められない。「納戸型住宅」が「衣類用押入容積」について家族人数の影響を受けないのは、衣類のうち押入に収納することが多い季節外衣類を、「納戸型住宅」では納戸に集中して収納することが多いためと考えられる。

V. 衣裳缶・衣裳箱の数

衣裳缶と衣裳箱の平均個数は、表14に示す。対象全体では、衣裳缶の平均所有個数は4.91個であり、このうち押入・天袋・物入の中の衣裳缶は4.12個である。また、衣裳箱の平均所有個数は5.42個、押入・天袋・物入の中のもの4.52個となっている。すなわち、衣裳缶・衣裳箱ともに約1個は、部屋の中にそのまま置かれているといえる。住宅タイプ別にみると、衣裳缶は「一般住宅」にやや多く、衣裳箱は「納戸型住宅」がやや多くなっている。「一般住宅」において衣裳缶の所有個数が多いのは、前節でみたように、この型の「衣類用押入容積」が多いことと関連していること

表13 衣類用押入容積

衣類用押入容積	一般住宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		全体	
	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数
衣類用押入容積	5.97	53	4.92	78	4.50	37	5.16	168

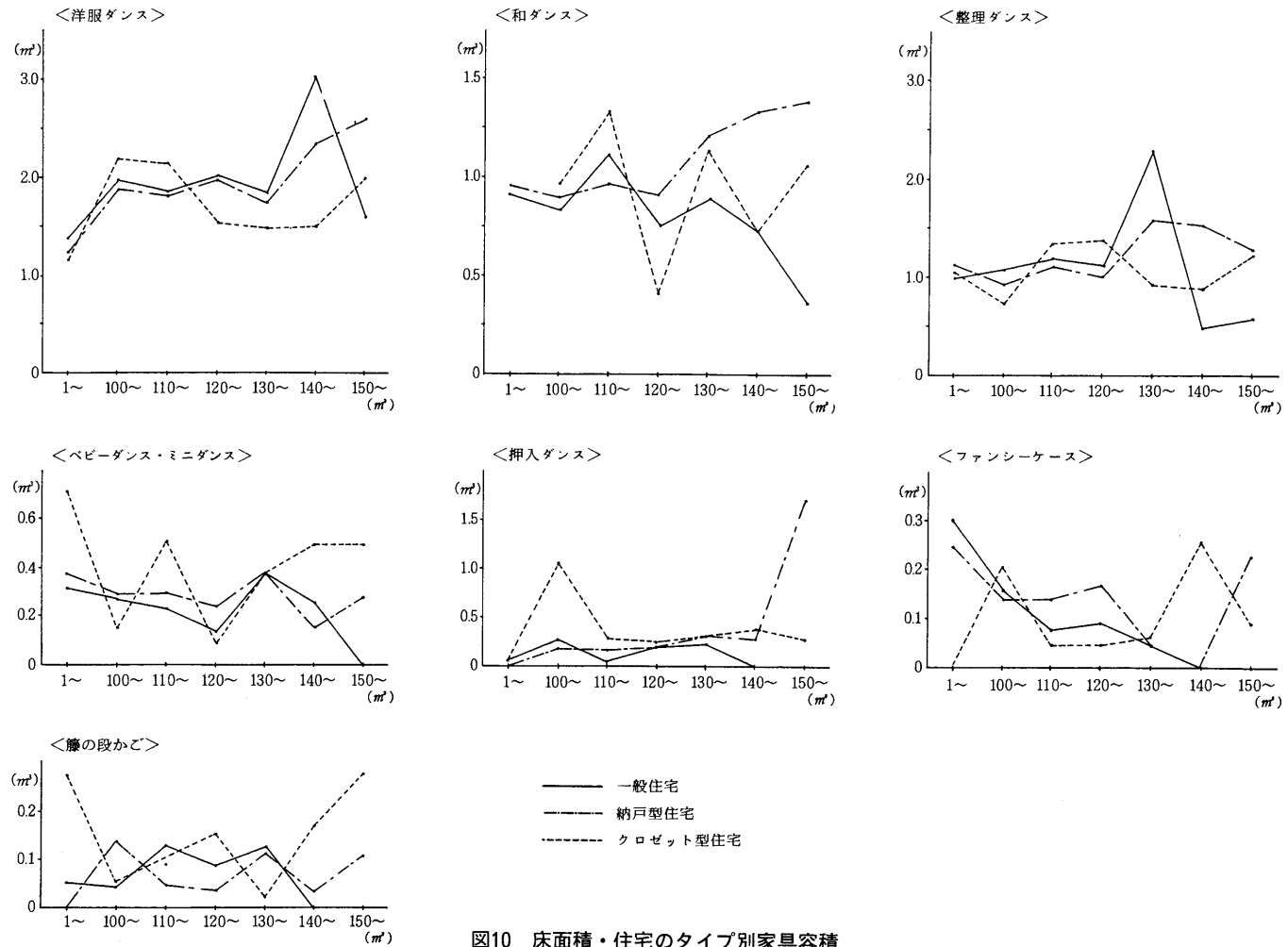


図10 床面積・住宅のタイプ別家具容積

衣類の収納に関する研究

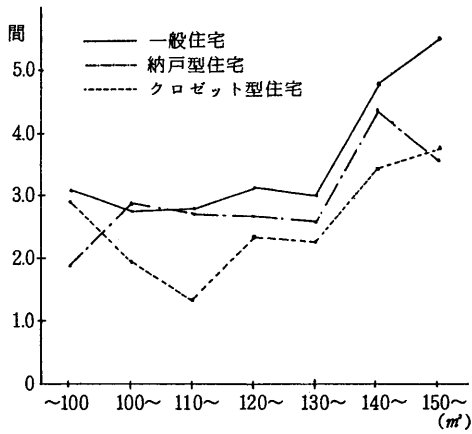


図11 床面積・住宅のタイプ別押入の間数

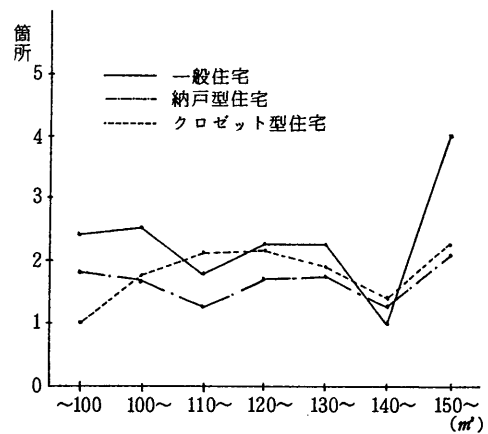


図14 床面積・住宅のタイプ別物入の箇所数

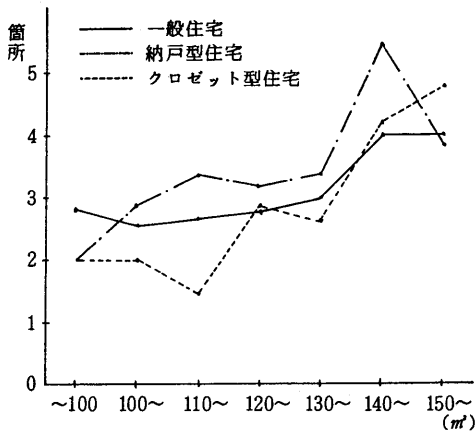


図12 床面積・住宅のタイプ別押入の箇所数

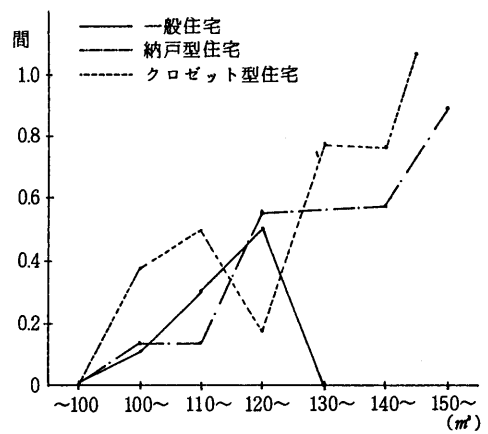


図15 床面積・住宅のタイプ別つくりつけ家具の間数

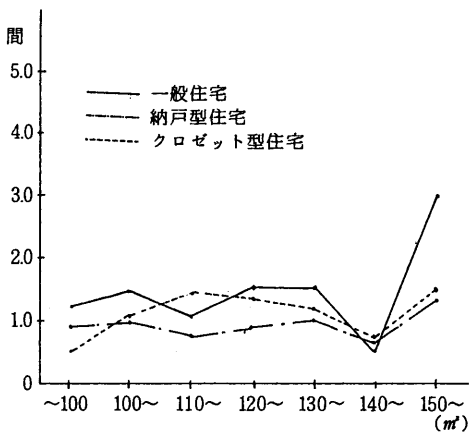


図13 床面積・住宅のタイプ別物入の間数

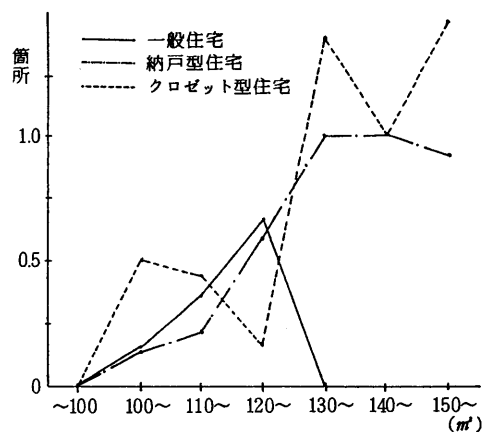


図16 床面積・住宅のタイプ別つくりつけ家具の箇所数

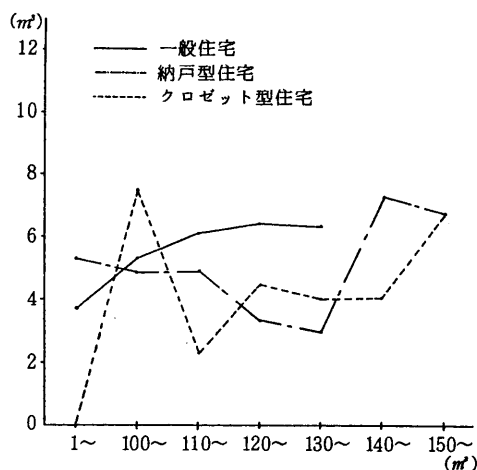


図17 床面積・住宅のタイプ別
衣類の収納されている押入容積

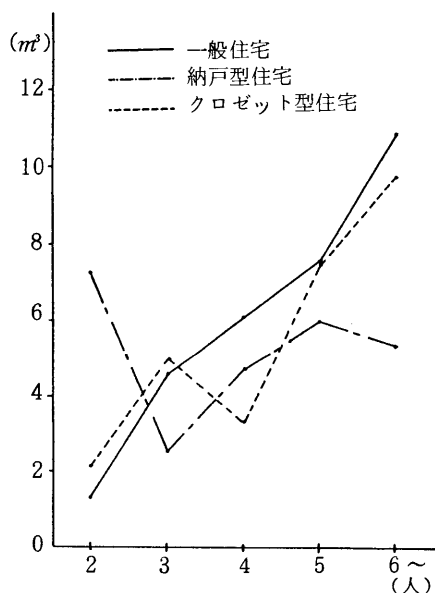


図18 家族人数・住宅のタイプ別
衣類の収納されている押入容積

考えられ、季節外衣類を衣裳缶にいれて押入に収納することが多いためであろう。

4. まとめ

居住者が収納専用スペースをどのように使用し、どう評価しているのかについて明らかにし、収納専用スペースの設置状況の違いによって衣類の収納容量がどのように異なるのかについて検討することにより、今後の衣類の収納スペースのありかたを考えることを目的とした。そのため、三重県の大型3団地の建売住宅とハウスメーカーが建設した注文住宅を調査対象とし、227件の有効サンプルを得た。このサンプルを収納専用スペースの実態に基づいて3種類の住宅タイプに分類し、収納専用スペースの設置状況別に検討した。その結果、以下のような知見が得られた。

1) 収納専用スペースの実態

図面に書かれた名称に基づく、収納専用スペースの面積は、納戸が5.7㎡、クロゼット類が5.1㎡となっている。しかし、このスペースの接続空間や付属設備等の面で名称による区別が不明確なものが一部みられる。また、面積的限界のため、このスペースを衣類の収納のために使用している家庭がほとんどであるにも関わらず、更衣や化粧に使用されているケースは少ない。また、「クロゼット型住宅」においても、このスペースに個人の衣類のすべてが収納しきれておらず「自室」にはみだしているが、同時に他の家族員の衣類も収納されている状況が明らかになった。さらに、「クロゼット型住宅」の場合も、衣類以外の多様な生活用品がこのスペースに収納されて納戸的な使用が行なわれており、衣類収納専用のスペースになっていないことが明らかになった。

表14 衣裳缶・衣裳箱の所有個数

(個)	一般住宅		納戸型住宅		クロゼット型住宅		全 体	
	平均	件数	平均	件数	平均	件数	平均	件数
衣 裳 缶	5.97	70	4.44	101	4.33	46	4.91	217
押入・天袋・物入の中の衣裳缶	4.93	68	3.92	97	3.33	43	4.12	208
衣 裳 箱	4.93	69	5.88	101	5.13	46	5.42	216
押入・天袋・物入の中の衣裳箱	4.30	64	4.92	95	3.95	40	4.52	199

2) 収納専用スペースに対する評価

「クロゼット型住宅」の居住者は、「衣類の選択・整理」「衣類の入れ替え」「型くずれ・しわ」の点で、このスペースを高く評価しており、同時に「寝室の清掃」や「寝室の景観」等の間接的効果の点についても、高い評価をしている。また、「納戸型住宅」・「クロゼット型住宅」ともに収納専用スペースの必要性を強く認めている。

3) 衣類収納に用いられる容量

調査対象全体でみると、1家庭当たりに衣類用に用いられる家具の容積は4.66 m^3 、衣類収納に用いられる押入の容積は5.16 m^3 であり、両方で約10 m^3 が衣類収納に用いられていることがとらえられた。

衣類用の収納家具の容量は、全体としては延床面積の狭さのため、「一般住宅」でやや少ない傾向がみられたが、同一住戸面積レベルでみると少ないとはいえず、住宅タイプによる差はないといえる。家具の種類別にみると「クロゼット型住宅」では洋服ダンスの容量が他の住宅タイプに比べて少なくなっており、ウォークインクロゼットが洋服ダンスを代替するものとなっていることが認められた。また、「クロゼット型住宅」では、個人専用の使用が多いことと「吊るす」という収納方式の影響のためか、家族人数の増加に伴って家具容量が増加する傾向がとらえられた。

衣類の収納に用いられる押入の収納容量は、全衣類用収納家具容量より多く、かなりの衣類が押入に収納されている現状がとらえられた。住宅タイプ別にみると、「一般住宅」の容量が最も多くなっており、収納専用スペースをもたないこの型の特徴がとらえられた。また、衣類用押入容積は、「一般住宅」の場合、住宅の延床面積の増加に伴って多くなっており、納戸をもたない「一般住宅」と「クロゼット型住宅」では、家族人数が多くなるに従って、増加する傾向がとらえられた。

4) 以上のように、収納専用スペースについては、ハウスメーカーの側に納戸とウォークインクロゼットの概念に混同が認められるとともに、住宅全体の収納スペース不足もあって居住者の使用の面においてもウォークインクロゼットが納戸的に用いられている状況があり、ウォークインクロゼットがその機能を明確に定着させてい

るとはいえない。しかし、居住者はウォークインクロゼットの特徴を正当に評価して必要としており、ウォークインクロゼットが本来の機能を果たすためには各個室に設置するなど住宅全体の収納スペースの量や配置を考え直す必要があるだろう。

また、現在衣類収納に対して押入が大きな役割を果たしているが、収納専用スペースをもたない「一般住宅」ではこのスペースの代替空間ともなっており、より大きく依存している。しかし、本来衣類収納のための空間ではないため、衣類の整理や入れ替え、しわ・型くずれなど使用上に問題がある。この点でも収納専用スペースの導入を考えていく必要があるだろう。

最後に、本研究に協力していただいた三重大学卒業生の西村佳代子・森田正美・稲田恵子の諸氏と調査に協力していただいた皆様に感謝します。

注

- 1) 中島喜代子：「収納空間を巡る3つのポイント」住サイエンス、1988年7月
- 2) 一棟宏子、上林博雄：「衣類および寝具の収納について（第1報）衣類の保有傾向の推移について」、家政学雑誌33、No.6、1982年、一棟宏子、上林博雄：「衣類および寝具の収納について（第4報）衣類の収納—その実態と居住者の志向」、家政学雑誌36、No.1、1985年、一棟宏子、本田節：「ウォークインクロゼットに関するケーススタディー」、大阪樟蔭女子大学論集、第27号、1990年、がみられるだけである。
- 3) 「納戸」以外の収納専用スペースの名称は多様に用いられている。ちなみに、本調査で用いられていた名称は、「ウォークインクロゼット」と「クロゼット」がほとんどであるが、その他に、「クロゼットルーム」、「ドレスルーム」、「ファミリークロゼット」、「クローク」、「ウォーキングクロゼット」などがある。
- 4) 長谷川秀記：「現代用語の基礎知識」、自由国民社、1987年、大久保詢史：「現代日本インテリアコーディネイト体系1」、日刊工業新聞社、1984年、下出源七：「建築大辞典」、彰国社、1979年、川上玄：「大日本百科事典」、小学館、1987年、等を参考にした。
- 5) 中島喜代子：「住宅における収納スペースの設置状況（ハウスメーカーに対する調査）」、

三重大学研究紀要第41巻、1990年

6) 同上

7) BとCの両方にあてはまる住宅は5件である。